

アンケートから見える教育実習指導の学びと課題 —実習事前指導・実習・実習事後指導を通して—

A Study of the Prior Guidance in the Teaching Practice in Kindergarten - Through the Analysis of the Questionnaire after the Teaching Practice -

増井 啓子
MASUI Keiko

本稿では、幼稚園実習第1段階終了後と第2段階終了後に実施したアンケート調査の結果から教育実習指導の在り方について検討した。第1段階では「子どもへのかかわり」や「指導案の作成」「事前準備（教材研究）」などの課題が見出され、課題解決のために第2段階の実習までにそれらを踏まえた授業を展開した。その結果、第2段階終了後のアンケートでは「事前準備（教材研究）」については効果が見られたが、「子どもへのかかわり」や「指導案の作成」については、一定の効果が見られるに留まった。このことから、現在の授業展開に加え、子どもの発達段階を理解した上での「幼児理解」を主眼においた授業展開が必要であることが示唆された。

キーワード：幼稚園教育実習，指導案，子どもへのかかわり，教材研究，幼児理解
Key Words：Teaching Practice in Kindergarten，Teaching Plans，Interaction with Children，
Research Teaching Materials，Understanding of Children

1. はじめに

奈良佐保短期大学（以下、本学）では、地域こども学科にこども教育コース、こども保育コースの2コースがある。本学では特技や趣味を生かすフィールド制を導入し、こども保育コースでは得意分野に強い幼稚園教諭や保育士になることを目指している。こども保育コースのフィールドには、保育士資格と社会福祉士国家試験受験資格を取得する保育ソーシャルフィールドと、保育士と幼稚園教諭二種免許を取得するスポーツ・音楽・ピアノ・自然と遊び・心と発達の5つのフィールドがある。筆者が担当するこども保育コースの中で幼稚園教諭の資格を取得するフィールドでは、1回生で幼稚園教育実習（第1段階）1週間、2回生で幼稚園教育実習（第2段階）3週間を実施している。

筆者は、幼稚園教育実習において第1段階から第2段階へと学生自身が実習を通してどのような学びや振り返りをしているのか、実習後の学生の振り返りを省察することは、幼稚園教育実習の指導に有用であると考えた。

そこで本稿では、幼稚園教育実習の第1段階、第2段階の実習後にアンケートを実施し、そのアンケート結果から教育実習指導の在り方について問題点や改善点を考察した。

2. 教育実習指導（第1段階および第2段階）の概要

2-1 教育実習の目的および概要

本学の「こども保育コース教育実習ハンドブック」には教育実習の目的として「実際に幼児とともに生活するなかで、幼稚園教育の特質や独自性を体験し、幼児教育への興味や関心を高めることにある」¹⁾とあり、さらに「教育実習の基本」として「①「良い保育者になる」ことを目指して実習する②教育実習の意義を自覚し実習する③保育の理論や方法と実践との統合を目指して学習する④幼稚園教育について実践的に理解を深める⑤職務と使命を理解し、理想の保育者像を描く」²⁾とある。実習において学生は、実際の保育の場に身を置き、教員の指導のもとで、子どもとの生活を共にしながら、幼稚園やこども園の役割や幼稚園教員の職務を学ぶことの意義を理解できるよう努める。

本学では幼稚園教育実習を1回生の11月に第1段階として1週間、2回生の6月に第2

表 1 幼稚園教育実習の流れ

1 回 生	前期	「実習基礎指導」	「基礎ゼミナールⅠ」
			「カリキュラム論」＊
			「学習発達論」＊
			「保育・教職入門」＊
			「音楽Ⅰ」
後期	事前指導（「教育実習指導a」）	「基礎ゼミナールⅡ」	
	幼稚園教育実習第1段階	「保育（言葉）」＊	
	事後指導（「教育実習指導a」、個別面談）	「保育（人間関係）」＊ 「音楽Ⅱ」	
2 回 生	前期	事前指導（「教育実習指導b」）	＊のうち3つ以上の単位 取得が必須
		幼稚園教育実習第2段階	
		事後指導（「教育実習指導b」、個別面談）	
	後期	「教職実践演習」	

段階として3週間、合計4週間行う。教育実習の対象となっている園は、学生自身が卒園した園や学生が自己開拓した園、大学が連携している園であり、そのほとんどは、私立幼稚園である。教育実習第1段階と第2段階は、原則として同じ園とし、1回生の夏期休業時には、学生が実習園の環境に慣れ、積極的に実習を行いやすくすることをねらいとして実習予定の園で2日間ボランティアを行う。本学における実習は、1回生が「観察実習」と「参加実習」、

2回生が「観察・参加実習」と「責任実習」の形式で行うことになっている。

「観察実習」は、クラスの活動の中に入り、幼稚園の1日の生活、年齢ごとの子どもの姿（子どもたちの遊び・生活・育ち）、保育者の姿（子どもへのかかわり方、言葉かけ、保育の展開方法など）、保育内容や保育方法、保育形態、保育者の職務、環境構成、職員との連携、保護者への対応などの視点で保育現場の様子を捉えていく。

「参加実習」は、観察から一歩進めて幼児と関わりをもちながら役割の一端を担い、教員の補助として活動の援助をする。また、実際に絵本や手遊び等を子どもの前で行うこともあり、実施方法は、園や各配属クラスの担当教員の考え方により異なる。実習は大学での学びと保育現場との接点であることから、「実習で何を学びたいのか、どのような実習をしたいのかを明確」³⁾にして実習生としての心構えをもつことが大切である。また、子どもたちにとっては、たとえ実習生であっても「教員（先生）」と受け止められることから、自らの行動や言動に注意を払う必要がある。「責任実習（部分・全日）」は、園生活の1日の全てあるいは1日のある部分の保育をクラス担任に成り代わって行う実習であり、実習の最終段階として位置づけられるものである。この実習では、指導計画を作成して活動の展開を考え、保育活動を行う。学生は、責任実習において、中心となる活動に何を選択するのか、自分ができる題材（得意な分野）を考えて、題材が決まれば事前に「活動のポイント」「ねらい」を設定し指導計画を作成する。

2-2 幼稚園教育実習の流れ

表1に本学における幼稚園教育実習の流れを示し、また、表2に筆者が担当した授業「教育実習指導」の具体的な指導内容の流れを示した（1回生は平成28年度、2回生は平成29年度のものである）。

第1段階の実習で目指すものは、幼児教育の実際に触れ、観察実習、参加実習などの機会を通じて幼児理解を深めることである。また、実習生としての自覚をもち、指導教員の実践に学び、指導教員の指導・助言のもとに活動や仕事の一部を分担していくことである。第2段階では、それぞれの園がもつ教育理念や特徴を理解すること、また、幼稚園教員として必要な専門性と実践力を身に付け、自己の課題に気付き、問題解決への様々な方法を学ぶこと、そして、教員としての役割を認識し、幼児教育に対する意欲と責任感を高めることを目指している。第2段階の実習では、第1段階の実習での経験や学びをもとに、専門職としての力量と自覚を育むことが目標となる。表2に示すように「教育実習指導」の授業内では実習の内容や心構えに始まり、教育現場での生活の様子や観察の視点、指導案の理念や作成、幼児の発達を促す教材研究と指導の在り方を学ぶ。本学では、入学から実習前後、就職まで、同じ教員が、学生支援をするPT（パーソナルティーチャー）制度があり、授業の指導と並行してPTによる個別指導、実習におけるマナー・身だしなみ等、生活全般の指導、実習目標

表2 「教育実習指導」の具体的な指導内容のながれ

教育実習指導 第1段階 (1回生)		教育実習指導 第2段階 (2回生)	
1	幼稚園実習の指導ガイダンス 幼稚園教育実習の意義と目的 実習先オリエンテーションの意義	1	第2段階の意義と自己課題の明確化
2	幼稚園教育実習に向けて 事前指導「実習目標」グループワーク 実習記録の必要性和記述の仕方	2	記録簿の書き方について :「実習目標」「オリエンテーション」
3	保育の実際についての理解 (見学・観察・参加)	3	「実習目標」・指導案の意義と書き方
4	幼児理解の視点と方法 グループで教材交換会 (手遊び, 自己紹介教材)	4	自作教材(部分保育案の作成) アンケートによる指導
5	実習直前の準備と心構え, 注意事項	5	責任実習に基づく(3, 4, 5歳児別)の指導計画の作成
6	実習後の流れ(事後指導の予約確認)	6	保育指導案に基づいたグループ討議
教育実習 11月1週間		7	教育実習への心構え, 準備 発達や季節に合った手遊び 自作教材実演(小グループ)
7	実習後の振り返りとまとめの視点 事後レポート・自己評価票の記入	8	指導案に基づき自作教材実演
8	実習の学びと課題, グループ討議	9	責任実習模擬保育(小グループ)
9	実習報告会に向けて① (振り返りとまとめの視点)	10	事後指導の流れと記録簿提出 教育実習直前の準備と心構え 自己評価票の振り返りの意義
10	実習報告会に向けて②(レジュメ作成)	教育実習 6月3週間	
11	教育コースと合同実習報告会 (幼, 小のつながり)	11	実習報告会に向けて (レジュメ作成について)
12	実習報告会まとめ・アンケート	12	実習後の振り返り・アンケート
13	部分実習へ向けた教材研究の方法 各教材の特長, 分析	13	実習報告会リハーサル
14	指導計画の作成(各年齢の発達の特徴) 取り組む活動の基本的な展開のポイント	14	実習報告会
15	指導案の作成(指導案作成の手順) 自作教材作成(エプロンシアター・ パネルシアター)	15	教育実習第1, 2段階を通しての学び 保育者の専門性と実践力について

指導など、教育実習に向けて様々な準備を行う。また、実習終了後には、PTが担当する学生の実習記録簿及び本学が定めた「自己評価票」を通して、実習の学びと振り返りを個別に指導している。

実習生は「自己評価票」を通して、子ども理解力(子どもの個別性や発達の特徴を理解する力, 子どもの遊びを理解する力), 保育実践力(保育内容を理解し展開する力, 保育計画を立案する力, 記録し, ふりかえる力), コーディネート力(保護者・地域とつながる力, 実習園の職員(保育者を含む)とつながる力, 保育の質をマネジメントする力)など様々な視点から自分を見つめなおし, 次の実習への課題を明確にすることができる。一人ひとりの学生が貴重な実習の機会を免許取得の第一歩として受け止め, 主体的に実習に取り組み, さらに幼稚園教員としての資質向上心をもつよう指導している。

3. アンケート調査(第1段階)

3-1 対象および実施時期

平成28年度の幼稚園教育実習第1段階を終了した学生(1回生)56名を対象とし, 平成28年11月, 実習終了後の「教育実習指導a」の授業内で振り返りアンケート(付表1)を行った。

表3 実習中に担任教諭や園長先生から指導を受けた内容について【複数回答】

項目	回答数	回答数/56名
子どものかかわりについて	41	73%
援助・言葉がけ	31	55%
誤字脱字	16	29%
部分保育（手遊びや、歌唱指導、絵本読み聞かせ等）	15	27%
準備や片付けについて	9	16%
報告について	7	13%
環境構成	5	9%
ねらいの設定について	3	5%
その他（記録簿）	3	5%
その他（ピアノ一日実習）	2	4%
その他（一日実習）	1	2%

表4 実習終了時に最も達成されなかった課題として残ること【複数回答】

項目	回答数	回答数/56名
記録簿作成に時間がかかる	31	55%
トラブル場面での指導	31	55%
全体を見ることができない	28	50%
記録簿の内容が薄い	18	32%
絵本読み聞かせ等保育技術	13	23%
手遊びのレパートリーが少ない	12	21%
言葉かけがうまくいかない	8	14%
内面を理解した援助	7	13%
発達等保育専門知識	5	9%
遊びの援助（自由遊び中の援助）	4	7%
食事・排泄等の生活習慣の指導	2	4%
記録簿の項目の意味が分からない	2	4%
保育者とのかかわり	1	2%

3-2 アンケート結果

「実習中に担任教員や園長先生から指導を受けた内容」（表3）としては、多い順に「子どものかかわりについて」が73%、「援助・言葉がけ」が55%と半数を超える学生が指導を受けたと答え、ついで「誤字脱字」が29%、「部分保育（手遊びや、歌唱指導、絵本読み聞かせ等）」が27%と3割近くの学生が指摘を受けたと答えている。「今回の実習で難しいと感じたところ」を記述させたところ「保育者としての子どもへのかかわり（過干渉になり過ぎない）」、「子どもとの距離感のとりかた」、「子どもへの言葉がけ」などの記述が見られ、学生自身も担当教員から指導を受けた内容について課題であると感じていることがわかる。

また学生が「実習終了時に最も達成されなかった課題」（表4）として、多い順に「記録簿作成に時間がかかる」が55%、「トラブル場面での指導」が55%、「全体を見ることができない」が50%で半数を超える学生が達成されなかったと答え、ついで「記録簿の内容が薄い」32%と記録簿について思うようにはかきできなかったと感じている。「今回の実習で難しいと感じたところ」を記述させたところ、「記録の作成」など記録簿作成の難しさをあげ、「物の取り合いの対処法、喧嘩の際の仲裁の仕方」、「乱暴な子どもへのかかわり方、注意の仕方」などトラブル場面での指導での難しさを挙げている。また「子どもの全体を見る」など「全体を見ることができない」ことを難しいと感じていることがわかる。

「実習自己評価表」に基づいて筆者が作成した第1段階の実習での到達目標を学生自身に示し、実習の振り返りとさせた（表5）。結果としては、「記録簿は誤字、脱字、記入漏れなく提出できた」が0%で誰も達成できたと感じていない。さらに「記録簿の「幼児の姿」「ねらい」「環境構成」「幼児の活動」「保育者の援助」などの意味が分かり要点を押さえて記入することができた」については9%と低く、前述のように実習記録簿を書くことが難しかったと感じたことが顕著に現れている。反対に「一日の保育の流れをつかむことができた」が89%、「幼稚園教員という仕事の楽しさが分かった」が86%、「幼稚園の職員から指示された事柄や保育室やトイレなどの環境整備を行うことができた」が82%と8割を超える学生が第1段階で幼稚園の日常について経験学習し、実習生としての立場から幼稚園教員の役割が理解できたと感じている。また「今回の実習でうれしかったこと」を記述させたところ、「子どもからの声かけ（一緒に遊ぼう、一緒にお弁当食べよう、ありがとう、先生好き等）」、「先生と呼ばれたこと」などを記述しており、実習中に経験したことが教員としての自覚や保育への意欲を高めていることがわかる。

最後に「これからの自分の課題」を記述させたものを筆者が、内容によって表6のように分類した。表3や表4の結果と同様「子ども理解」や「記録簿」に関する記述が見られた。

表5 実習を振り返って、下記項目から該当するものをすべて選びなさい。【複数回答】

項 目	回答数	回答数/56名
記録簿は誤字、脱字、記入漏れなく提出できた	0	0%
記録簿の「幼児の姿」「ねらい」「環境構成」「幼児の活動」「保育者の援助」などの意味が分かり要点を押さえて記入することができた	5	9%
幼稚園教員の職務や役割について理解を深めることができた	22	39%
適切な指導や援助の方法が分かった	26	46%
子どもの名前を全員覚えることができた	31	55%
子どもたちと話をする際、丁寧で優しい言葉遣いに気を付けた	31	55%
保育室、廊下、玄関ロビー、園庭の環境は保育者の意図やねらいがあることが分かった	31	55%
一日の幼稚園の仕事を覚えることができた	35	63%
積極的に子どもとかかわることができた	35	63%
先生としての役割を体験することができた	35	63%
幼稚園教員という仕事の厳しさ・大変さが分かった	38	68%
子どもたちとのかかわりから一人一人の幼児について理解しようとした	39	70%
挨拶や実習態度は実習生としてふさわしくできましたか	40	71%
一日の先生の動きが分かった	41	73%
幼稚園の職員から指示された事柄や保育室やトイレなどの環境整備を行うことができた	46	82%
幼稚園教員という仕事の楽しさが分かった	48	86%
一日の保育の流れをつかむことができた	50	89%

また表3や表4の結果では顕著には現れなかったものの、記述では「事前準備」について具体的な課題として「手遊び、絵本、活動などの教材研究」「教材研究のレポーターを増やすこと」などがあげられた。

3-3 幼稚園教育実習（第2段階）へ向けた課題

これら幼稚園教育実習（第1段階）のアンケート結果から、幼稚園教育実習（第2段階）へ向けた課題として、多くの学生が「子どもへのかかわり」や「指導案の作成」「事前準備（教材研究）」に関して感じていることがわかった。この課題解決のために、幼稚園教育実習（第2段階）までに行った取り組みを次章に述べる。

表6 これからの自分の課題

分類	記述
子どもへのかかわり	積極的に子どもとかかわる 子ども名前をしっかりと覚えてかかわること 子ども理解を深めること、一人一人と全体への子どもへのかかわり方 笑顔でいること、言葉づかい 保育者としての行動、言葉づかい
記録簿	誤字脱字をなくし記録を丁寧に書く わからないことは質問する
事前準備	手遊び、絵本、活動などの教材研究 子ども実際の姿と保育者の援助の書き方、指導計画の大切さ 教材研究のレポーターを増やすこと ピアノの練習 子どもの様子を見ながらピアノが弾けること

4. 第2段階に向けた取り組み

4-1 課題：子どもへのかかわり—保育現場をイメージして—

毎回の「教育実習指導」の授業では、保育現場の様子、遊び、生活、友達関係など実際の園での写真やスライドを見せ、子どもへのかかわりに関する具体的な視点を講義で伝えている。また、絵本や紙芝居、手遊び、歌遊びなどの実技、演習を取り入れながら、実習へのイメージ作りをしている（図1～4）。

幼児理解を深めるために、授業では絵本の読み聞かせなどグループワークを取り入れ、学生同士で保育者役、子ども役を担い子どもへの言葉のかけ方や関わり方などを互いに評価しあって進めている。また、模擬保育室や壁面を利用して、季節の制作などを飾りつけ



図1 歌遊び



図2 なぞなぞ



図3 パネルシアター

子どもたちが楽しく生活できる保育室をイメージし、学生と共に保育環境を構成してみることで実践につなげる授業を行っている。

さらに、授業内では子どもと楽しめる手遊びについて、グループで情報交換も行っている(付図1)。手遊びには、子どもの手指や言葉の発達に合わせて、座ったままでできるもの、全身を使うもの、手合わせのように2人組でするものなど様々なタイプがある。手遊びは、活動への導入に向けて子どもを集中させるためだけではなく、手指の感覚の発達促進や豊かな表現力が身につくなど様々な効果があり、独自の遊び方をつくっておくと、子どもにあわせた臨機応変な対応ができることを体験させ実際に組み立てさせた。

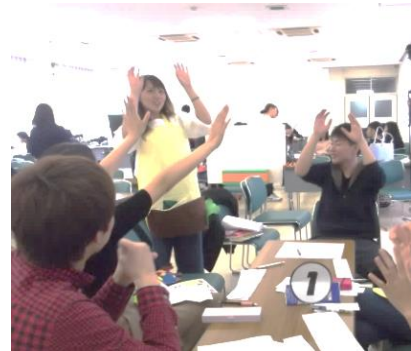


図4 手遊び

4-2 課題：指導案の作成

園や個々の実習生によって不安の材料は異なるが、実習を円滑に行うポイントは、第2段階の実習までに様々な保育場面を想定して、事前準備がどれくらいできているかであると筆者は考える。そこで、教育実習指導の授業では、具体的な指導案の作成にも取り組んだ(付図2)。学生が取り上げた内容の一部を表7に示し、また図5のように指導案の領域分布を示した。半数に近い学生が「制作」についての指導案を作成している。「制作」についての指導案が多いのは、実習生にとって、「制作」という活動が手順を踏んで進めることができ、イメージしやすい活動であり、子どもの興味や関心、発達段階から活動を考えるより、取り組みやすい活動であるためと思われる。

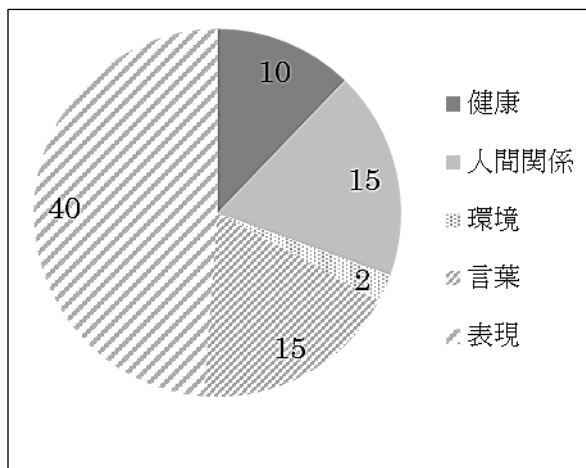


図5 領域別の指導案数

そこで「教育実習指導」の授業では、子どもの興味や関心、発達段階から活動を考えられるように、子どもとの関わりを想定したグループワーク(模擬保育)を取り入れている。学生同士で保育者役、子ども役を担い子どもへの言葉のかけ方や関わり方などを互いに評価しあうグループワークを重ねることで、自分一人では気づかなかったものの方や「他者からの学び」が得られ、互いに教材研究を行える機会となる。また、これを積み重ねることで、実習に臨む際に受身ではなく、「子どもとこんなことをしたい」と子どもとの関わりを楽しみながら、意欲的に実習に臨めるようになると考える。

表7 学生が考えた活動案（一部抜粋）

領域	部分または設定保育時の活動	対象年齢	取り上げる理由
表現	手作り楽器で演奏する 絵本「できるかな」を使って表現遊びをする	5	室内で体を動かす楽しさを感じてほしい リズムに合わせて色々な動物の表現を楽しみ 模様遊びができる
制作	ポンポン筆でしゃぼん玉	3,4	様々な表現を楽しみ環境遊びができる
	くるくるプロペラ にじみ絵 おたまじゃくし（折り紙） おしゃれ傘（折り紙） 紙皿を使ったカエルのカスタネット てるてるぼうずづくり カタツムリの制作	4	季節を取り入れた制作 3歳児以上のどの年齢でも楽しめる 雑誌に季節のあそびとして紹介されていた 雑誌に季節のあそびとして紹介されていた 梅雨の時期なのでカエルの鳴き声に興味をも ってもらう 雨の日でも楽しめる 季節の小動物であるから
	はじき絵	4,5	雑誌に季節のあそびとして紹介されていた
	時計の制作 新聞紙で輪なげをつくって遊ぶ 染め紙のアジサイ	5	実習中に「時の記念日」がある 「保育表現演習」授業でヒントをえた 雑誌に季節のあそびとして紹介されていた
お話	パネルシアター （カレーライス，はらぺこあおむし）	3,4	自作教材
	ペープサート（森のくまさん）	5	自作教材



図6 創作紙芝居



図7 パネルシアター
（カレーライス）



図8 自己紹介カード



図9 歌遊び
（おもちゃのチャチャチャ）



図10 エプロンシアター
（ジャックと豆の木）



図11 歌遊び
（まあるいたまご）

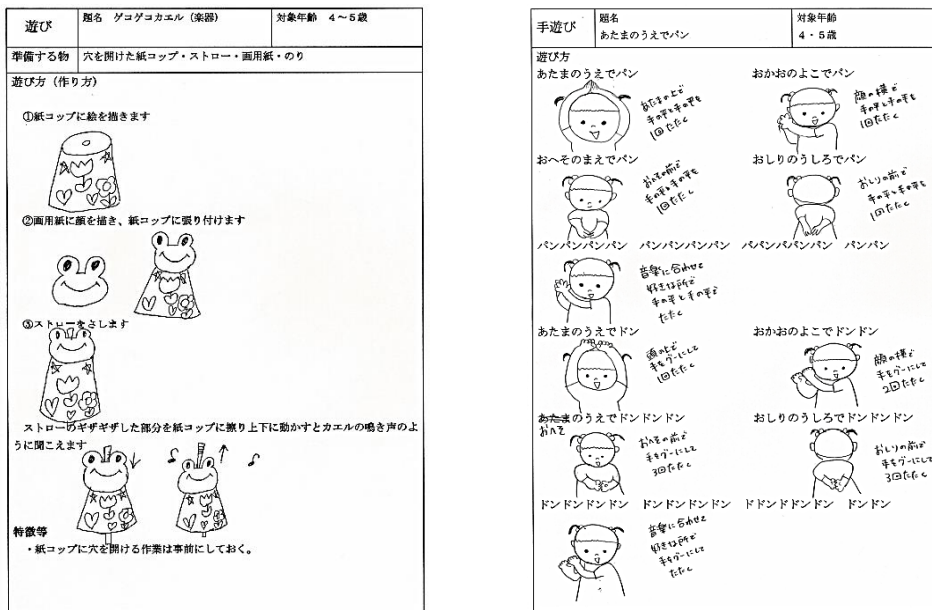


図 12 教材研究ノート

4-3 課題：事前準備（教材研究）

春、夏などの休業期間に教育実習の準備、教材研究に関する課題として、発達段階や季節を意識した絵本を選ぶこと（付表 2）や手遊びの練習、園児の前で実習生の名前を覚えてもらうために使う「自己紹介カード」の作成、紙芝居、エプロンシアター、パネルシアターなどの教材作成を課した。図 6～図 11 に、教材研究の実例を示した。このような課題を作成する中で「実習に挑戦する」という自覚を高め、自ら主体的に学ぶ準備につなげたいと考えた。

また、保育内容に関する準備として、教材研究ノート（図 12）の作成を設けた。遊び・絵本・手遊びを 1 セットとしてノートにまとめ、毎週授業時に提出することを課題とした。これは幼稚園教育実習で活用できる、遊びを集積することを目的としている。

5. 幼稚園実習（第 2 段階）アンケート調査

表 8 実習中に担任教員や園長先生から指導を受けた内容について【複数回答】

5-1 対象および実施時期

平成 29 年度の幼稚園教育実習第 2 段階を終了した学生 54 名を対象とし、2017 年 7 月、実習終了後の「教育実習指導 b」授業内で自由記述と選択形式の振り返りアンケート（付表 3）を行った。

項目	回答数	回答数 / 54 名
援助・言葉がけ	35	65%
子どものかかわりについて	21	39%
環境構成	18	33%
準備や片付けについて	9	17%
報告について	7	13%
誤字脱字	4	7%
部分保育（手遊びや、歌唱指導、絵本読み聞かせ等）	0	0%
ねらいの設定について	0	0%
その他	0	0%

5-2 アンケート結果

「事前に計画した指導案が参考になりましたか」の問いに対して、「はい」と答えた学生が 51 名で全体の 94%、「いいえ」と答えた学生が 3 名で全体の 6%であった。参考になった理由については、「事前に考えておいたことで、担当保育者とそれをたたき台にしてスムーズに話ができた」、「事前に渡して置いたことで、細かい指導をしていただけた」、「事前に考えておいたことで、自分なりにイメージをもって活動したい内容を伝えることができた」といったことが挙げられた。また、参考にできなかった理由としては、「1 週間ごとに担当クラスが変わったため、活動内容のねらいが合わなかった」といったことなど、活動内容の変更を求められたことが挙げられた。4-2 で取り組んだ指導案の作成が一定の効

表9 「部分実習の活動の中で難しかったところ、うまくなかったところ」

<p>保育者の援助</p>	<p><制作> グループの人数をもう少し減らした方が良かった。活動時間の配分が難しかった。個人差があるので、一人一人の把握が難しかった。活動の説明が長引いてしまった。しっかりと準備をしていたのに、上がってしまい、手順を間違ってしまった。片付けの指示がきちんとできなかった。出来上がったもので遊ぶ時間が足りなかった。描画材料によってセロテープが付きにくいことが分からなかった。</p> <p><表現> フルーツバスケットをした際、スムーズにいくようにと果物をあらかじめ決めておいたが「その果物嫌い」と言われ、戸惑ってしまった。</p> <p><全体> 保育者の立つ位置が難しかった。全体への声掛けが届かなかったため、同じ言葉を一人一人に言うことになった。活動の終わり方が難しかった。活動から次の活動への切り替えが難しい</p>
<p>環境構成</p>	<p>制作の場合、子どもの動きを想定して材料の設定や、環境構成を考えておく必要があった。事前の準備、クラスの数分プラスの材料を整えておくべきだった。</p>

果があったことがわかる。
「実習中に担任教員や園長先生から指導を受けた内容について」(表8) 答えさせたところ「援助・言葉がけ」65%、「子どもとのかかわりについて」39%と第1段階でのアンケート結果と同じく上位に占めるものの、「子どもとのかかわりについて」では前回の73%から大幅に減少していることがわかり、4-1 で取り組んだことや実習関連科目の授業で取り組んできたことは一定の効果を示したと考えられる。また「部分保育」や「ねらいの設定について」はともに0%と低く、「部分実習・責任(一日) 実習の活動がうまくできた部分はどこですか、また、うまくできた理由を書いてください」(表9) の問いに対しても、「準備をしっかりとしておいた」「事前に指導案を書いておいたことにより、いろいろな予想を頭に入れて活動を進められた」「手遊びを準備

したことにより、導入がスムーズにできたので、全体的に落ち着いて展開することができた」などの記述があり、4-2, 4-3 で取り組んだことの効果があったといえる。しかし、「援助・言葉がけ」についての数値が最も多いことには変わりなく、配属された幼児の実態や年齢、発達段階など子どもの姿を読み取ることが大きな課題である。

「実習終了時に最も達成されなかった課題として残ること」(表10) を答えさせたところ「トラブル場面での指導」50%で、前回の55%とあまり変わらないものの「内面を理解した援助」46%は前回13%から大幅に増加し、4-1 でグループワーク(模擬保育)や絵本の読み聞かせなどを取り入れたものの、実際の保育現場では様々な場面があり、子どもの発達段階を理解した上での幼児理解と保育者としての関わり方が必要であることがわかる。

表10 実習終了時に最も達成されなかった課題として残ること【複数回答】

項目	回答数	回答数/54名
トラブル場面での指導	27	50%
内面を理解した援助	25	46%
記録簿作成に時間がかかる	20	37%
記録簿の内容が薄い	12	22%
担当教諭とのかかわり	6	11%
ピアノの技術	5	9%
指導案の作成	4	7%
絵本読み聞かせ等保育技術	0	0%
手遊びのレパートリーが少ない	0	0%
活動のレパートリーが少ない	0	0%

した理由」として「毎日かかわることで、一人一人のことをもっと知ろうと思った」「3, 4, 5 歳児の成長の違いを学べた」などと記述しており、学生自身が前回アンケートで課題としていた「子どもとのかかわり」や「内面を理解した援助」を第1段階より積極的に試みた結果、達成されなかったという数値が高くあらわれたのではないかと考えられる。
また「記録簿作成に時間がかかる」37%、「記録簿の内容が薄い」22%と「記録簿の作成」についての項目も前回と同様高い数値を示した。しかし、それらは前回が55%と32%で数値を見ると減少傾向にあ

り、PTによる個別指導や「教育実習指導」の授業で取り組んだ幼児理解の視点をもった記録簿の書き方を学んだことの効果があらわれているのではないと思われる。これは「実習中に担当教員や園長先生からほめてもらったこと」の自由記述に「記録簿の記録のしかたについて」という記述があったことからわかる。

さらに「絵本読み聞かせ等保育技術」「手遊びのレパトリーが少ない」「活動のレパトリーが少ない」がともに0%になり、前回の「手遊び」21%「絵本」23%から大きく減少している。ここからも4-3で行ったことの効果があらわれているといえる。

表10に「部分実習の活動の中で難しかったところ、うまくできなかったところ」の記述を筆者が「保育者の援助」と「環境構成」に分類したところ「保育者の援助」に関することが大半を占めていた。中でも「活動の説明が長引いてしまった」、「フルーツバスケットをした際、スムーズにいくようにと果物をあらかじめ決めておいたが「その果物嫌い」と言われ、戸惑ってしまった」とあるように実習生の幼児理解が足りず、クラスの子どもたちに適した説明が困難であったことが推察される。また、「個人差があるので、一人一人の把握が難しかった」とあるように制作活動を行う際、クラス全体の指導をすることで精一杯のため個々への配慮が及ばなかったようである。

「環境構成」に関することの中でも「子どもの動きを想定して材料の設定や、環境構成を考慮しておく必要があった」とあるように実習生自身も難しかったと感じており、実際、表8においても担任教員や園長先生から指導を受けた内容として「環境構成」が33%と高い値を示している。

5-3 アンケート結果から見える幼稚園教育実習（2段階）終了後の課題

第2段階終了後のアンケート結果から、第1段階終了後のアンケートでわかった「子どもへのかかわり」や「指導案の作成」「事前準備（教材研究）」などの課題解決のためにおこなった取り組みで、「事前準備（教材研究）」「指導案の作成」については、前述のように一定の効果があったと思われる。しかし、「子どもへのかかわり」「記録簿の作成」については、表8や表9において、第一段階より数値の減少がみられ、一定の効果が見られたが、依然指導や課題の上位項目としてあげられているため、今後も課題として捉え、取り組みを継続していく必要がある。

6. 今後に向けて

「子どもとのかかわり」「記録簿の作成」の課題に取り組むにあたり、筆者が必要と思うのは、こどもの発達段階を理解したうえでの「幼児理解」である。

「子どもとのかかわり」に関しては、子どもの様子はその時々が変わるものであり、そのときに応じた対応が求められる。「子どもの気持ちを考えてみよう」「子どもの気持ちに立ってみよう」など臨機応変な対応が求められる。実践を頭で考えていても実際に実践していくことは難しい。子どもの援助は、直接的にかかわることだけでなく、子どもの発達過程を踏まえ、その子どもの気持ちを前向きに促していくという援助もあり、根底には、「幼児理解」が必要となる。

また、「記録簿の作成」に関しては、授業でも何度か練習を重ねたが、保育の流れを理解しなければ、記録の記入は難しい。学生の実習記録簿を見ると、記入する際の援助・配慮の表現方法が、指導者主体の保育内容になっている。また、実習記録は単なる日課の記録ではなく、そこで学んだ「幼児理解・保育者の援助」の記述が足りない。実習生なりに意識的に実習内容を深め「子どもとのかかわり」の背景を捉えることができるようになるために、実習の経過とともに段階を踏んで日課の記録から「幼児理解・保育者の援助」の記述が増えるように指導していきたい。

さらに、「指導案の作成」に関しては、あらかじめ指導案を作成して実習に臨むのであるが、実習現場では園のいろいろな実情もあり、事前に担当クラスを発表され、実習初日に指導案を作成して持ってくるようにと指示をいただくこともあれば、担当クラスの実習開始当日である園もある。

担当クラスの発表がない場合は、幼稚園教育要領やこれまでの授業で学んだ子どもの発達を参考に受けもつ可能性のある年齢の指導案を考えている。

指導案を作成するにあたって、学生は制作やゲーム、運動遊び、リズム遊び、季節の遊びなど自分が得意なものを主活動に取り入れて計画している。

しかし、実習が始まり、子どもたちと出会って、予想と違って「こんなこともできるのか」、「こんなことを楽しめるのか」と大学の講義で学んだ理論とは異なった子どもの姿を目の当たりにし、自分が用意した指導案が目の前の子どもたちの興味や関心と合わない場合、指導案の変更をしなければならない状況が起こることもある。その時には、実習生が捉えた子どもの姿と照らし合わせながら、担当教員に指導案変更の相談をし、指導を仰ぐ必要がある。

本来、指導計画は目の前の子どもの実情に合わせて作成する必要がある。しかし、学生にとっては、事前に作成した指導案の展開でやり遂げることが目標となってしまうと、想定外の展開になった時、援助方法を工夫し、環境を再構成することができない。

また、活動における導入、展開、まとめのそれぞれの場面について、「活動から次の活動への切り替えが難しい」「活動の終わり方が難しかった」など、子どもたちが活動を理解し、興味をもってかかわることができるような援助の工夫、楽しく取り組めるような説明の仕方、個々への対応、活動の終わりに満足感や達成感を感じる声掛けなどができていないことが伺える。

さらに、実習を終えた学生の感想は「よかった、うまくできて嬉しい」「うまくいかなかった」という単純な視点での振り返りにとどまり、学生は自分の思うとおりに活動が流れるかどうかを気にしている。しかし、保育を振り返るという点では、「活動」、「子どもたちの姿」、「保育者の援助」「ねらい」についてなぜそれを選んだのか、選択の意図、それは子どもたちにとってふさわしいものであったのか、そのためにどのような準備をしたのか、準備は十分であったのか、子どもはどのような様子だったのか、その原因は何であるかなど、子どもたちを主体にして考えていく振り返りの視点が重要であり、それが「幼児理解」につながる。「幼児理解」を深めるために、子どもの姿に応じた関わりについて臨機応変に対応できるように、4章で実施したことに加えて今後もグループワークなどを取り入れながら、学生の記録を基に子どもを見る視点を考えていく必要がある。

7. まとめ

日々の子どもの姿の記録から「次に何をやる」と考える時、準備した教材は非常に強い味方でもある。ただ、それを「全部やらなくては」と思わなければ良いだけである。何を次にもってくるかは、子どもの姿によって決まる。そして、教材を展開する方法は、唯一ではないはずである⁴⁾とあるようにその時々々の関係や状況の中で、子どもの発達を理解し、子どもの姿とすり合わせながら、保育者がどのようにかかわっているのか、子どもが楽しそうな表情をしたのはなぜなのかなど考察する視点を育てていく必要がある。

また、学生自身が子どもの成長発達をどう見て子どもとどうかかわるのかという原点に学びの軸足を置く指導が求められる。そのことが、学生の学びに質を高めることにつながる。

さらに学生の保育者になるという真剣な思いを受け止めつつ、保育内容に関する他の科目と実習が関連しており今、学んでいること全てが自分の保育観につながっているということを学生自身が意識できるよう実践的な指導を取り入れた授業展開を考えていきたい。

引用・参考文献

- 1) 奈良佐保短期大学地域こども学科編：「2016 年度入学生用こども保育コース教育実習ハンドブック」, p.14 (2016)
- 2) 1) と同書, p.16
- 3) 1) と同書, p.21
- 4) 福島大学附属幼稚園, 大宮勇雄, 白石昌子, 原野明子編著：『子どもの心を見えてきた：学びの物語で保育は変わる』, ひとなる書房, p.225 (2011)

付表 1 幼稚園教育実習第 1 段階終了後の振り返りアンケート

教育実習第 1 段階の振り返り	学籍番号	名前	11/18
<p>(1) 実習中に担任教師や園長先生から指導を受けた内容について 3 つ選びましょう。その他があれば ⑤その他に記入しましょう。 ① 援助・言葉かけ ② 部分保育 (手遊びや、歌唱指導、絵本読み聞かせ等) ③ 環境構成 ④ ねらいの設定について ⑤ 子どもとのかかわりについて ⑥ 準備や片付けについて ⑦ 報告について ⑧ その他 ()</p>			
<p>(2) 実習終了時に最も達成できなかった課題として残ることはどのようなことですか。 3 つ選んで〇を付けてください。 食事・排泄等の生活習慣の指導 () 記録簿作成に時間がかかる () トラブル場面での指導 () 記録簿の内容が薄い () 内容を理解した援助 () 記録簿の項目の意味が分からない () 言葉かけがうまくいかない () 手遊びのレパートリーが少ない () 遊びの援助 (自由遊び中の援助) () 絵本読み聞かせ等保育技術 () 全体を見ることができない () 保育者とのかわり () 発達等保育専門知識 ()</p>			
<p>(3) 実習中に園で歌った歌 (他の実習生や指導担当の先生も含む)</p>			
<p>(4) 実習中に実習生が弾いた曲 (他の実習生や指導担当の先生も含む)</p>			
<p>(5) 実習中に子どもたちとした手遊び。(他の実習生や指導担当の先生も含む)</p>			
<p>(6) 実習中にした遊び。(他の実習生や指導担当の先生も含む) 【制作やゲーム、合奏、絵等】</p>			
<p>(7) 実習中に担任や園の先生から保育終了後に頼まれた仕事</p>			

(8) 該当する箇所すべてにチェックを入れましょう。

- 子どもの名前を全員覚えることができた
- 一日の保育の流れをつかむことができた
- 一日の先生の動きが分かった
- 一日の幼稚園の仕事を覚えることができた
- 積極的に子どもとかわるることができた
- 子どもたちとのかかわりから一人一人の幼児について理解しようとした
- 子どもたちと話をする際、丁寧に優しい言葉遣いに気を付けた
- 挨拶や実習態度は実習生としてふさわしくできましたか
- 適切な指導や援助の方法が分かった
- 先生としての役割を体験することができた
- 幼稚園教師という仕事の楽しさが分かった
- 幼稚園教師という仕事の厳しさが分かった
- 幼稚園教師の職務や役割について理解を深めることができた
- 幼稚園の働きから支持された事柄や、保育室やトイレなどの環境整備を行うことができた
- 記録簿の「幼児の姿」「ねらい」「環境構成」「幼児の活動」「保育者の援助」などの意味が分かり要点を押さえて記入することができた
- 記録簿は録字、附字、記入漏れなく提出できた
- 保育室・廊下・玄関ロビー・園庭の環境は、保育者の意図やねらいがあることが分かった

※今回の実習でうれしかったことをできるだけ具体的に書きましよう。

※今回の実習で難しいと感じたところを書きましよう。

※今回の実習で勉強になったと感じたところを書きましよう。

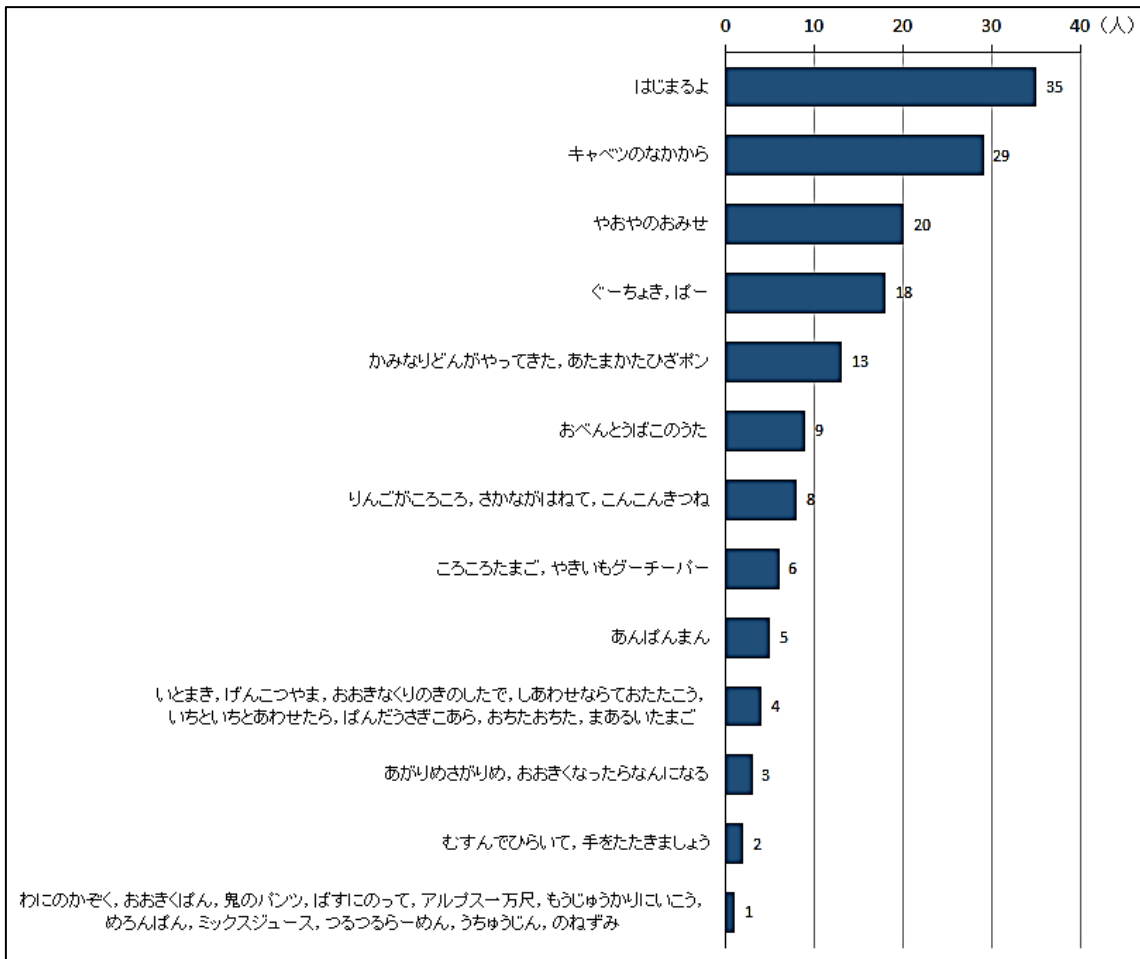
※これからの自分の課題を書きましよう。

付表2 グループワーク時に学生が選んだ絵本

	絵本・紙芝居・お話	対象年齢	取り上げる理由
1	おおきなかぶ	3	自作教材エプロンシアターで作成
2	ぐりとぐら	3	ユーモアのある内容
3	いやだ いやだ	3	3歳時期の気持ちが分かる内容
4	もこもこもこ	3, 4	言葉のリズムを楽しみイメージが広がる
5	たまごのあかちゃん	3, 4	繰り返すを楽しめる
6	100かいだてのいえ	4, 5	本の形がおもしろく楽しめそう
7	ブレーメンの音楽隊	4, 5	表現遊びにつながりそう
8	スイミー	4, 5	友達と一緒にいる楽しさが味わえそう
9	できるかな	4, 5	絵を見て楽しみながら体を動かせる
10	999ひきのきょうだいのおひっこし	4, 5	楽しい表現が出てくる
11	10ぴきのかえるのうんどうかい	4, 5	6月に運動会がある
12	あめふり	4, 5	季節のお話
13	トムのしっぽ	4, 5	しっぽ取り遊びにつながる内容
14	おばけなんてないさ	4, 5	歌と一緒に楽しめる
15	おいしいのぼうけん	4, 5	どきどきしておもしろい
16	ともだちや	4, 5	友だちの大切さを伝えられる内容
17	たなばたバス	4, 5	季節のお話
18	ぶたのたね	4, 5	豚と自分の気持ちが同化して楽しめる
19	やっぱりおおかみ	4, 5	相手のことを思う気持ちを知ってほしい
20	めのまどあける	4, 5	生活のリズムを感じる
21	やさいのがっこう	4, 5	好き嫌いをなくす
22	わたしのワンピース	4, 5	制作活動につなげられる
23	そらいろのたね	4, 5	自分が小さいころから大好き
24	しずくのぼうけん	3, 4, 5	季節のお話
25	おたまじゃくしの101ちゃん	3, 4, 5	言葉のリズムが楽しめる
26	そらまめくんのベッド	3, 4, 5	そらまめくんの気持ちがかわいい
27	はじめてのおつかい	3, 4, 5	手伝いの楽しさを感じ温かい気持ちになる
28	どうぞのいす	3, 4, 5	友だちのことを思う気持ちが伝わる
29	あめぼぼ	3, 4, 5	雨の音やリズムを聞いて楽しむ
30	だるまさんの	3, 4, 5	繰り返しや言葉のリズムが楽しめる
31	しずくのぼうけん	3, 4, 5	季節のお話
32	ぞうくんのあめふりさんぽ	3, 4, 5	繰り返しの表現を楽しめる
33	ぎゅっ	3, 4, 5	親子の触れ合いが感じられる温かい内容
34	まほうのでんしレンジ	3, 4, 5	歌があり繰り返し楽しめる
35	アンパンマンとはみがきまん	3, 4, 5	季節のお話、歯磨きの習慣をつけられる
36	はみがきれっしゃ しゅっぱつしんこう!	3, 4, 5	歯磨きが楽しくなる内容
37	ねずみくんのチョッキ	3, 4, 5	自分が小さいころ読み、大好き
38	はらぺこあおむし	3, 4, 5	子どもたちが好きそう
39	どんなにきみがすきかあててごらん	3, 4, 5	友だちを想う気持ちが感じられる
40	100万回生きたねこ	5	友だちの気持ちを考えるきっかけになる
41	こんとあき	5	お姉さんお兄さんの5歳児に聞いてほしい

付表 3 幼稚園教育実習第 2 段階終了後の振り返りアンケート

<p>教育実習第 2 段階の振り返り</p> <p>3 週間の実習お疲れ様でした。実習によって得たものは大きかったと思います。今後の教育実習指導の参考にさせていただきますためにアンケートのご協力よろしくお願いたします。</p> <p>お答えいただいた内容は、皆さんに迷惑をかけることはありません。今後の授業内の指導内容の参考のために実施するもので、結果は目的以外には使用しませんので安心してお答えください。</p> <p>小 () には O 印、大 []・[] には適当な内容を記入ください。</p> <p>(1) 今回の実習は何歳児ですか。【 歳児クラス】 () 異年齢クラス () 週ごとに年齢が変わった 実習の年齢のクラスは最初から決まっていたか。() (2) 部分実習 設定保育はありましたか。() ある () ない 責任 (一日) 実習はありましたか。() ある () ない 部分実習の回数 【 】【 歳児クラス】 責任 (一日) 実習の回数 【 】【 歳児クラス】 どんな活動をしましたか。期間中に行なった活動すべて下記の表に書いてください。</p>	<p>名前</p> <p>7/4</p>	<p>(8) 実習中に担任教師や園長先生からほめてもらったことを書いてください。</p> <p>(9) 実習終了時に最も達成されなかった課題として挙げることはどのようなことですか。 3 つ選んでのをつけてください。</p> <p>記録簿作成に時間がかかる () 指導案の作成 () 設定保育 () 責任実習【一日】 () トラブル場面での指導 () 記録簿の内容が薄い () 内面を理解した援助 () 活動のレパートリーが少ない () 手遊びのレパートリーが少ない () 絵本読み聞かせ等保育技術 () 担当教師とのかわり () ピアノの技術 () 健康面 ()</p> <p>(10) 実習中に園で歌った歌や弾いた曲 (他の実習生や指導担当の先生も含む) (11) 実習中に子どもたちとした手遊び、(他の実習生や指導担当の先生も含む)</p>
<p>(例) 制作・絵本・ゲーム・歌・歌唱指導・エピソード・リズム遊び・運動遊び・行事・プール (4) 事前に計画した指導案は参考にになりましたか。() はい () いいえ 事前に計画した指導案が参考にならなかったと答えた人にお聞きします。 なぜ、参考にならなかったのですか。その内容を具体的に書いてください。</p> <p>(5) 部分実習・責任(一日)実習の活動がうまくできた部分はどこですか。 また、うまくできた理由も書いてください。</p> <p>(6) 部分実習・責任(一日)実習の活動の中で難しかったところ、うまくできなかったところはどこでしたか。 例：興味・把握・環境構成・道具・材料・発達段階・導入・展開・活動と活動のつながり・まとめ(終わり方)・安全面への配慮・保育者の援助・活動時間の配分などから具体的な理由と改善点を書いてください。</p> <p>(7) 実習中に担任教師や園長先生から指導を受けた内容について 3 つ選びましょう。 その他にあれば⑨に記入しましょう。 ① 援助・言葉かけ ② 部分保育(手遊びや、歌唱指導、絵本読み聞かせ等) ③ 環境構成 ④ ねらいの設定について ⑤ 子どもたちのかわりについて ⑥ 誤字脱字 ⑦ 準備や片付けについて ⑧ 報告について ⑨ その他 ()</p>	<p>※ 3 週間の実習は充実していましたが、 () 全然充実してなかった () かなり充実していた () 充実していた () どちらともいえない ・その理由を書いてください。</p> <p>※卒業後の進路として幼稚園や、こども園を考えますが、 () まったく希望しない () 強く希望する () どちらでもない () 希望してもよい () わからない</p> <p>※ 子どもの出会いの中で印象的なことがあれば書いてください</p> <p>※ ご協力ありがとうございました。</p>	



付図1 グループワーク時に学生が選んだ手遊び (人数)

実習課題名	学年級	実習生氏名	時間	指導の構成	予想される幼児の活動	保育者の援助と留意点
6月30日(金) 実習時間 10:15 ~ 11:00	[4] 混児 男児(18)名 女児(18)名					
実習課題	紙コップロケット					
前日までの幼児の姿	絵本「みつけたよぼくだけのぼし」を準備する。空を飛ぶことや、星に興味を示す。	自分でイメージしたロケットを作り上げる楽しさを感じる。作ったロケットを友達と一緒に飛ばす楽しさを知る。	10:45		〇思い思いにロケットを飛ばす。	〇名前を記入した子どもが出たタイミングで、ロケットの飛ばし方を説明する。
10:15	材料を各テーブルごとに分け用意しておく。	〇スモックを着て着席する。	10:50		〇グループ毎に発射台に乗せ飛ばす。実習生の掛け声に合わせてロケットを飛ばす。飛ばすことを楽しむ。	〇子どもたちの思いや声に共感する言葉掛けを行う。〇一つの作品が皆に共有できるように、子どもたちの作品1つ1つを褒める。
10:20	絵本「みつけたよぼくだけのぼし」を見る。空を飛ぶことや、星に興味を示す。	〇絵本「みつけたよぼくだけのぼし」を眺め、空を飛ぶものや星に興味を持つように誘う。	10:55		〇片付ける。使った道具を片付ける。ゴミを捨てる。	〇次の活動にスムーズに入れるよう、早めに行付けの仕方を説明する。
10:25	〇実習生の説明を聞き、ロケットを製作する。準備ができた子どもから好きな色の紙コップを取る。マジックを使い、思い思いのデザインに仕上げます。	〇全員がよく見える位置で完成品を飛ばす様子を見せ、子どもたちの作りたと思う意欲を引き出せるようにする。	11:00			〇活動を終えることを伝え、排せつ水分補給を促す。
10:30	マジック完成品発射台	紙コップに輪ゴムをつける説明を聞く。紙コップに輪ゴムをつける。				
10:40	〇できた子どもから実習生のところへ行く。	〇輪ゴムを適当位置が分かりやすいように印をつけておく。輪ゴムをつけることが苦手な子どもには、必要に応じて援助する。				
		〇できた子どもから名前を記入することを伝え、実習生のところへ入るよう声を掛ける。				

付図2 学生が作成した指導案 (一例)